

2017

1/1

January
No.270

市報 やまぐち

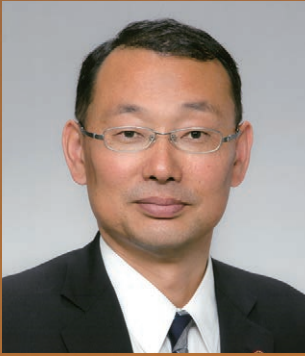
特集 子育て③

山口市本庁舎の整備に関する検討 14

山口を中心に撮影した映画「サバイバルファミリー」16

表紙「日常に彩りを添える」17





山口市議会議長 重見秀和

謹賀 新年



山口市長 渡辺純忠

市民の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお健やかに迎えることと心からお喜び申し上げます。

また、平素から市勢の発展と議会運営に対しまして御理解、御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、市議会におきましては、地方分権の進展により地方議会の役割と責務が一層重要性を増す中、先に定めた「山口市議会基本条例」に掲げる理念に基づき、市民に開かれた議会を目指し、取り組みを進めています。

また、人口減少や少子化が進む中、子育てや教育環境の整備など定住実現につなげるための施策の充実を目指し、現在、議員提案による子どもや子育てに関する条例の制定に向け、鋭意協議を進めているところでございます。

今後も、議会の役割と責任の重さを自覚し、市民の皆様のお意見等を十分にお聞かせいただきながら、「定住実現都市」づくりに向け、全力を尽くしてまいります。

ここに新年を迎え、議員一同心新たな決意のもと、一丸となり市民の皆様のために更なる躍進に努めてまいりますので、御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

新しい年が市民の皆様にとりまして幸せで実り多く、大いに飛躍できる年になりますよう心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

清々しい新春を迎え、皆様に謹んで新年のお喜びを申し上げます。

本市では、本年を「定住実現 更なる挑戦」の年と位置付けまして、定住促進と少子化対策という地域社会の最重要課題に対して地方創生の挑戦を継続すると同時に、平成30年度からを計画期間とする第二次山口市総合計画への架け橋となるようなまちづくりの挑戦に取り組んでまいります。

とりわけ“未来を創る「二つの挑戦」”として、県都としての求心力のある都市づくりを進めるため、山口都市核と小郡都市核の互いの個性を際立たせて高次の都市機能が集積する「広域県央中核都市づくり」の更なる挑戦を進めます。また、それにあわせて、21地域がそれぞれの個性を高め、豊かさや活力を実感できる地域づくりを進める「協働によるまちづくり」の更なる挑戦を進めます。

さらに、“豊かな暮らし「四つの価値」創造”として、地域雇用創出、学びや子育て、防災減災や住環境、健康福祉において、あらゆる世代が豊かに暮らせるまちの価値を創造するための取り組みを進めてまいります。

こうした挑戦をオール山口で進め、「これが私の故里だ」と、市内外の多くの方に共感していただける「定住実現都市」づくりに向け、市民の皆様と共に邁進してまいります。

結びに、皆様にとりまして健やかで実り多い1年となりますことを祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

子育て



次世代を担う子どもたちが、
目を輝かせながら、
夢や希望に向かって
育ってほしい。

子育てにかかわる人たちは、
妊娠・出産・育児・教育など
さまざまな場面で
子どもの成長や個性に応じた
悩みをかかえています。

今知ってほしい、
子育てのこと。

今号では、
子どもたちを支える家族・地域の
ネットワーク・相談窓口など
さまざまな角度から
子育てについてお伝えします。

☎ 広報広聴課

083-934-2753

特集

- 第一章 孤ひとり育てをしないで 4
- 第二章 悩こんだときの強い味方 6
- 第三章 このまちで育てる 8
- 第四章 発達障しょうがいを知る 10

ひとり 孤育てをしないで

この章では、子育てに奮闘中のお母さんたちに、子育て中の悩みなどを聞きました。

子育て環境から感じる不安・責任・ストレス・感謝

有富 夫が家事などを手伝ってくれたり、子どもの話を聞いてくれるので、私が忙しい時も二人の子どもにうまく愛情が分散されているのかなと思います。ただ、小学校の友達と遊びたいお姉ちゃんは、弟の面倒などで友達との時間が制限されて、はぶてることがあります。弟の面倒を見てくれる感謝の気持ちと申し訳なさがありますね。

熊井 山口市に引っ越してきた時は周りに知り合いもおらず、夫は日中仕事で、子どももまだしゃべることができなかったため、寂しさやしんどさもあつたかなと思います。今も日中は子どもと二人きりですが、夫が育児や家事を手伝ってくれるので、何とか楽しく過ごせています。ただ、睡眠不足や体

松田 私は子どもとずっと一緒にいることでストレスを感じやすく、特に子どもが小さい頃はしんどくなっていました。一時預かりをしてもらえるようになってからは、自分の息抜きもできるようになり、楽にはなりましたが、同時にこんなにも楽をしているのかなという罪悪感を抱くこともあります。

小林 子育てで疲れるというストレスはありますね。数カ月前に山口市に引っ越してきて、それまでは働いていたので、子どもを保育園に預けていました。その頃は、子どもと接する時間が限られており、悪いなという気持ちがあったので、週末などは公園と一緒に行動するなど、できるだけ接する時間を作っていましたが、今は一緒に

調不良の時は、一人になりたいと思うこともあります。自分に余裕がない時に、子どもが危ないことなどをしてしまおうと、言い方に感情が出すぎてしまうことがあるんです。つい先日、子どもがおなかいっぱいになり、遊ぶ感じで汁物をこぼしてしまった時に、自分の感情をぶつけてしまいました。反省して「ママも言い方が悪かったね」と言いましたが、これから本格的に嫌々期がきて、注意することも多くなるんだろうなと思うと、どういふふうにしていけばいいのかなと思います。

親・地域・施設の支え

松田 私の両親は遠くに住んでいて、子どもが1歳になる頃までは実家に帰っても大変かなと思って帰りませんでした。だけど、ある時すごくしんどくなって母親に電話をしたら、「いいから帰っておいで」と言ってもらって、遠くても親がいる心強さを実感しました。帰省中は、子育て経験者の母親が手助けしてくれるので、すごく助かります。

橋本 私の夫は平日も週末も仕事などで家をあけることが多く、いわゆる昔ながらの家庭環境で子どもを育ててきました。子どもが小さい時は家族で泊まりがけで出かけるなんてありえませんでしたね。ただ、団地内のご近所さんが、息子とキャッチボールをしてくれたり、自転車の練習をしてくれたりして、地域で子どもを育ててもらったので、孤立感はわりとなかったかなと思います。

有富 夫が家事などを手伝ってくれたり、子どもの話を聞いてくれるので、私が忙しい時も二人の子どもにうまく愛情が分散されているのかなと思います。ただ、小学校の友達と遊びたいお姉ちゃんは、弟の面倒などで友達との時間が制限されて、はぶてることがあります。弟の面倒を見てくれる感謝の気持ちと申し訳なさがありますね。

熊井 山口市に引っ越してきた時は周りに知り合いもおらず、夫は日中仕事で、子どももまだしゃべることができなかったため、寂しさやしんどさもあつたかなと思います。今も日中は子どもと二人きりですが、夫が育児や家事を手伝ってくれるので、何とか楽しく過ごせています。ただ、睡眠不足や体

小林 子育てで疲れるというストレスはありますね。数カ月前に山口市に引っ越してきて、それまでは働いていたので、子どもを保育園に預けていました。その頃は、子どもと接する時間が限られており、悪いなという気持ちがあったので、週末などは公園と一緒に行動するなど、できるだけ接する時間を作っていましたが、今は一緒に

松田 私は子どもとずっと一緒にいることでストレスを感じやすく、特に子どもが小さい頃はしんどくなっていました。一時預かりをしてもらえるようになってからは、自分の息抜きもできるようになり、楽にはなりましたが、同時にこんなにも楽をしているのかなという罪悪感を抱くこともあります。

「感情をぶつけてしまう」

①氏名、②お子さんの年齢等、③その他

①有富陽子さん
②小学2年生の女の子、4歳の男の子

①松田みのりさん
②2歳の男の子、2人目を妊娠中

①熊井麻世さん
②1歳の男の子
③平成27年秋に本市に転入

①橋本淑子さん
②2人の息子は成人
お孫さんが1人

①小林玲奈さん
②3歳の男の子
③平成28年8月に本市に転入





小林 先日コンビニで買い物中に、私が子どもから目を離したときに子どもが売り場のパンを触ってしまったんです。すると、その時に近くにいた女子中学生が「これはやめた方がいいよ」と子どもの手を取って教えてくれたんです。知らない子にもだめなことはだめときちんと言える山口市の子どもはすごいなと思いましたね。

熊井 山口市はコミュニティ内で昔から住んでいる方のつながりがあり、その中で子どもたちを見守ってくれているような雰囲気があるのは嬉しいです。それに、市内には気軽に行ける子育て支援施設が

たくさんありますよね。私が行く子育て支援施設では、助産師の先生が来てくださる時があり、悩んでいた離乳食のことを相談できてすごく助かりました。

橋本 普段話す感覚で、気楽に深い話もできるのがいいですよ。近くに相談できる人がいない時でも、身近な施設で小さな悩みから専門的な相談まで一対一で話せると、気持ちが楽になりますね。

母親としての自信・希望

松田 子どもにとっては、気持ちが大きくて頼れる優しい穏やかなお母さんが憧れだなと思います。しかし、普段そんなふうにはなかなかならず、怒ってばかりなので、こんなお母さんで申し訳ないなと思います。

有富 第一子の時は初めての経験ばかりで、自分が子どもの頃、お母さんがどうしてくれたか思い出そうとしても同じようにできず、上手いきませんでした。第二子の時も、好みや考え方が違い、悩みや失敗ばかりだったような気がします。子どもと一緒に成長できたらしいなと思いつつも、私が子

どものような気がして、お母さんになれていないなと思うことも多々あります。子どもと一緒に勉強ですね。



橋本 子育て中は必死ですよ。子どもが大きくなってから聞いたのですが、子どもが学生の頃、つらいことがあった時に、家族に何を話すわけでもないけれど、家に帰ってきて気分が晴れていたという話を聞いて、自分なりに一生懸命子育てをしていれば子どもも乗り越えられるのかなと思いました。子どもにとっても、その時、自分の力で問題を乗り越えることができるよかったです。子どもが言ってくれないとわかりませんよね。一生懸命子育てをして良かったと思った瞬間でした。

小林 まだ子どもが小さいので、頑張っただけ良かったというのは少ししか見えませんが、成長が見えると、すごく嬉しいですよ。

熊井 成長しても、いつまでも心配したり、見守ってあげたいなと思います。

「こんな時はどうしたらいい？」—専門家に聞いてみました—

楽をすることへの罪悪感

一時預かりなどでお子さんが泣いて離れない時、お子さんに対して申し訳ない思いになりますよね。それはお母さんとお子さんが愛着という素敵な絆で結ばれている証です。人と関わることは、お子さんを大きく成長させますし、お母さんの笑顔はお子さんにとって何よりの願いです。「預けてごめんね」ではなく、「時間をくれてありがとう」と言って、抱きしめてあげてください。

感情が出てしまう

大きな声は、子どもたちにとって、ノイズ(騒音)と同じになってしまいます。感情的になりそうな時は、まず深呼吸をして気持ちを落ち着かせましょう。感情的になることは誰にでもあります。大切なことは、お母さんがストレスをためないように気分転換の方法をもつことと、気持ちが落ち着いた後にはお母さんの思いをお子さんに伝えることです。

子育て中は失敗ばかり

感情的に叱ってしまうことや、対応を間違えてしまうことは必ずあります。何度失敗しても、大変な状況になっても、親と子が生きている限り、やり直し(仲直り)ができます。つらい時は誰かに話したり、気分転換をして、やり直すエネルギーをためましょう。

山口芸術短期大学
保育学科講師 山根望先生

「失敗の連続」

悩んだときの強い味方

子育ては、喜びとともに不安もいっぱい。この章では、気軽に相談できる場所や、妊娠期から子育てをサポートする施設を紹介いたします。

相談ができる安心感

平成28年10月にオープンした「やまぐち母子健康サポートセンター」では、母子の心身の健康についての相談を受けています。ここでは、子育て中のお母さんが利用されているセンターの様子をご紹介します。

11月某日。「そろそろ離乳食をはじめめる時期ですよね・・・」と、生後5カ月となる美優ちゃんを抱っこしてセンターを訪れたのは、大内地区に住む林奈穂美さん。

林さんは、美優ちゃんの出産がはじめて。愛おしいはずの泣き声が怖くて心が不安定になってしまっていたとのこと。そのような中、センターの存在を知って、現在は定期的に訪れているそうです。

「離乳食は、あせらずに進めていって大丈夫。ちょうど離乳食スタート講座があるから、参加してみてね」とセンター職員から言われると、林さんは、ほっと安心した表情に変わりました。

「ここに来るまでは、自分で本や

ネットで調べていたのですが、いろいろな情報があり、逆に不安になっていました。ちょっとしたことでも気軽に相談できる場所ができて、とても気持ちが楽になりました。今では、子どもの成長を見るのが楽しくて仕方がないんです」と、身近に相談できる場所があることの大切さを実感されていました。

成長を分かちあえる場所

子どもと毎日接しているとなかなかその成長に気づかないもの。センターでは、子どもの成長に喜びを感じていただくため、身長と体重を計り、「大きくなったね」などと、さやかなメッセージを添えた成長記録を母子健康手帳に挟んでいます。

「寝返りを打てるようになったんです」「ほんとだ。わあ、凄い」と母親と成長を一緒に喜び、その雰囲気



①



②

- ①家庭訪問をして、母乳育児の相談に応じるセンター職員の村田さん(左)
②成長記録に身長、体重、メッセージを記入しながら談話する職員。心のこもったメッセージが記入されているので大切に保存しているお母さんも多い



寝返りを披露して褒められ、笑顔の美優ちゃん

センター職員の村田真理さんは、「子育てに不安や悩みはつきものですが、それ以上に子育てはとても楽しいもの。気軽に相談いただき、支援というよりも一緒に考えて、取り組んでいきたいです」と、3人の子育て経験や助産師の資格を生かして、一緒に子育てを楽しみたいと話していました。

妊娠期～産後



やまぐち母子健康サポートセンター

助産師や保健師が妊娠から出産、子育てに関する相談等に対応し、子育てのサポートをします。

☎ やまぐち母子健康サポートセンター
(糸米二丁目6-6保健センター内)
☎ 090-6840-8585





乳幼児期



やまぐち子育て福祉 総合センター

保育士や子育て支援員、発達支援相談員が就園や発達、子育てに関する相談等に対応し、子育てのサポートをします。

☑ やまぐち子育て福祉総合センター
(旭通り一丁目6-19 山口保育園内)
☎ 083-922-0855

個別相談から生まれた講座

「やまぐち子育て福祉総合センター」では、保育士や子育て支援員が個別相談を受けています。

現在、保育園や幼稚園に加えて、認定こども園、地域型保育施設といった多様な施設が誕生していることから、平成27年度に相談を受けた件数の約半数が園選びや園生活に関するものでした。相談の多くは個別に受けており、疑問や不安に対して、丁寧に詳しく説明しています。しかし、「悩んでいるのは私だけなのですか?」と云われ、不安のままのお母さんも多くおられました。

このため、幼稚園や保育園の園長等 را 招き、疑問や不安を直接聞き、応えていただく「はじめての園生活応援講座」を開催することにしました。他市ではほとんど実施されていない本市独自の講座です。8月に開催された講座の様子をご紹介します。

私だけの悩みではないんだ

講座では、はじめに、保育関係者から園生活についての説明を受け、その後、グループワークで悩みを解決していきます。

「保育園に入れますか」という切実な質問も多くあります。そして、一人のお母さんが、「3歳になる子どものトイレトレーニングが

できていないんですが大丈夫ですか」と質問すると、別の参加者から、「え?私も気になっていたことです」と、不安に思っているのが自分だけではないことが分かり、安心される姿が見られました。

一経験豊富な保育のプロである阿知須幼稚園の吉本倫子先生が、「入園する時には、そういう子どもさんはいっぱいいますから、心配しないで。園と一緒にむつが取れるようにしていきますよ」と話すと、お母さんに笑顔が浮かびました。

このほかにも、さまざまな質問があり、最後に林和子所長が、「子どものことを一番よく知っているのはお母さん。お母さんがよいと思う園はきつと子どもにも合うので、ピンとくる園を探してくださいね。どの園も皆さんを待っていますよ」と締めくくりました。



園内設置のセンターでは、実際の保育の様子を見ることが出来る

センターでは、園選びだけでなく、子育てや発達等の相談も受け付けています。乳幼児期は、子どもの人格形成を育む大事な時期であり、日々成長をしていきます。「親が笑顔であれば、子どもも笑顔になる」をモットーに、センターの職員は、いつも気軽に相談に来ていただくことを待っています。また、多くのお母さんに笑顔になっていただくため、保健センターで開催されている母子相談にも出向いています。



- ① 講座では、まず先生が園生活について説明をする
- ② グループワークで、付箋に書かれた多くの質問に丁寧に答えていく野田学園幼稚園の山下温子先生

このまちで育てる

山口の子育て環境は外国人からどう見えているのか。この章では、このまちに移住し、子育てをしている外国人にスポットを当て、子育て環境などについて考えます。



右から、エカテリーナさん、長女の明日華さん

profile
上田エカテリーナ
(Ueda Ekaterina)

ロシア出身。平成18年に山口県立大学の大学院・国際文化研究科に入学。日本人と結婚し10歳と1歳の子がいる。市内で英会話教室を営みながら、小学校でも英会話を教えている。先日の日露首脳会談の際には通訳をされた。市内在住。

日本で出産、「産みやすかった」

10年前にロシアから山口県立大学の大学院に入学されたエカテリーナさん。山口で知り合った日本人と結婚し、今は2人のお子さんを育てながら英会話教室で講師を務めています。

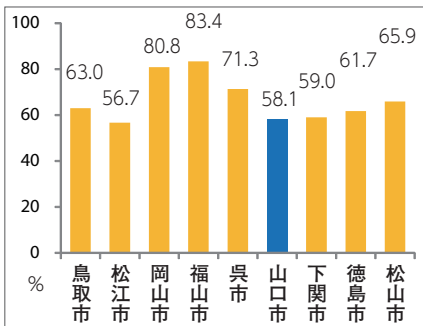
出産を迎える頃には日本語も上達し、生活にも慣れてきたようですが、日本での出産には不安があったそうです。「ロシアでは出産後2日で退院し、赤ちゃんのお世話の仕方は親から習います。でも山口では出産後1週間も病院にいたことができ、授乳やもく浴の仕方などのお世話を全て看護師さんが教えてくれました」とエカテリーナさん。故郷から遠く離れた山口でも安心して出産ができたそうです。

保育への考え方の違いにとまどい

しかし、保育面について何うと、「ロシアでは男女が共に働くべきだ」という考え方が古くから浸透していて、

産後すぐに仕事に復帰できるように、保育料を国が負担しています。また、5、6年前までは少子化が深刻だったそうで「2人目が産まれた家庭には、子どもが住みやすくなるためのリフォームや教育に充てる目的で、政府から50万ルーブル（日本円にして約95万円）が補助されます。ここ2、3年はベビーカーを押すお母さんの光景を多く見かけるようになりました。保育園の整備が追いつかず入りにくいのですけどね」と冗談まじりに話されました。

子育てをしやすいまちをめざし、自治体によってさまざまな支援が行われています。本市では、国が定める基準額どおりの負担を家庭に求めるのではなく、市独自の基準額を設けて、家庭の負担を減らしています。



【表1】2016年度県庁所在地・政令指定都市・中核市保育料調査（中・四国地区）

上の表は、国の基準額に対するご家庭の負担割合です。他の自治体に比べ本市の負担割合が低いことがわかります。（2016保育白書から抜粋。未公表の自治体を除く。）

「外国人を孤立させたくない」ーキッズクラブの取り組み事例ー

interview



国際交流ひらかわの風の会 理事・事務局長兼キッズクラブ代表 齋藤涼子さん

毎年山口大学には多くの留学生が来られます。小さな子どもがいる研究者も多く、随伴で来られた夫もしくは妻が、言葉や文化、宗教も違う日本での子育てに悩み孤立する場合もあり、支援が課題となっています。

ひらかわの風の会・キッズクラブ代表の齋藤涼子さんは、4年前に、風の会の部会としてキッズクラブを立ち上げました。「奥さん（留学生）の随伴として来られたご主人が、奥さんが帰宅される時間まで、子どもとスーパードで時間をつぶしているのを度々見かけました。慣れない育児に悩んでいると知り、なんとかしたいと思いましたが」と立ち上げた理由を話されました。

齋藤さんは、お子さんがまだ小学生の頃、夫の仕事の関係でイギリスに渡りました。当時は英語は余り話せず家に閉じこもりがちでしたが、自分の子ども

バブ (Babu Chittilappilly Varkey)

インド出身。平成14年に山口大学に国費留学。博士課程修了後、県内の小・中学校で英語指導を行う。インド人の妻と子どもが3人。日本とインドの二国間を行き来しながら家族と暮らす。子どもを対象とした国際理解ワークショップを主催。市内在住。



左から、バブさん、長男のビビロさん

きめ細やかな日本の教育に驚き

インド人のバブさんが本市にいられた時、長男のビビロさんは4歳。以前、バブさんの仕事の関係でアフリカで暮らしたこともありましたが、日本のように日常語として英語が通じない国に住むのは初めてだった為、最初の頃は戸惑いの多い日々でした。ビビロさんが市内の小学校に通い始め、学校から手紙を持って帰るようになると、日本語の分らない奥さんは困っていました。先生や近所の知人が色々と生活面のサポートをしてくれて大変助かったそうです。学校生活に関して、「インドの学校では、日本のように生活や健康管理の指導まですることはありません。早寝早起き、食育まで教えるきめ細やかな日本の教育に驚きました。私達外国人にも丁寧に指導していただき、先生には大変感謝しています」と話しました。

楽しかった運動会の思い出

ビビロさんは現在19歳。市内の小学校卒業後、インドの中学、高校に進学。現在は日本の大学進学準備のため、父親が暮らす大好きな山口に帰ってきて日本語を勉強中です。小学校時代の思い出として、「インドでは日本のような運動

会はありません。小学校の運動会は忘れられない楽しい思い出。お弁当を持って家族が応援に来るような国は世界中日本ぐらいではないでしょうか」と懐かしそうに話されました。また、バブさんは、「インドでは教科学習中心の教育。日本における体育をはじめ、礼儀作法や道徳などを含めた総合的な指導は子どもの人格形成に役立つ優れた教育システムだと思えます。また地域で子どもを見守るという取り組みもすばらしい」と話されました。

山口市では、地域の教育力を結集して子どもを育むという考え方のもと、幼児期から中学校卒業までの子どもの育ちを支える取り組みを推進しています。



国際理解のための英語プログラムで、熱心に子どもたちを指導するバブさん。

もとイギリスの子ども同士が仲良しになった事で、親同士も親しくなり、一人で悩むことも無くなったそうです。この経験がキッズクラブ立ち上げに繋がったといいます。

キッズクラブでは、月に1度、山口大学の留学生の親子を齋藤さんの自宅に招き、英語によるダンスやゲーム、音楽を通して、多国籍の子どもたちの交流の場を作っています。当初は齋藤さん一人で始めたクラブでしたが、1回目から参加している日本人の小学生が、アシスタントとしてクラブを手伝っています。「子どもたちは言葉をすぐに覚えて仲良くなります。子どもを通じて親同士が仲良くなることで、少しでも子育てなどに悩み孤立する外国人を減らしたいです」と齋藤さんは話されました。



外国の子どもたちと、日本の子どもたちが一緒に英語の歌を歌っている様子。

発達障がいを知る

発達障がい、ご存知ですか？この章では、その基本的な知識や、発達障がいのお子さんを育てるお母さんへの支援などをお伝えします。

市内に住む山下里枝さんには二人のお子さんがいます。下のお子さんは自閉症と知的障害の診断がある、いわゆる発達障がいを抱えています。きっかけは、1歳半の健診だったそうです。母子健康手帳の「〇〇できますか」の欄がほとんど「いいえ」ばかりになり、保健師から「半年様子を見ましょう」と言われました。それまで上の子どもと比べて何か違うなあと漠然と思いはしていたものの、心にだんだんと不安が芽生えてきました。

そして半年後、医療機関へ行き、医師から自閉症の疑いがあるとされます。「やっぱり」と思う反面「勘違いではないか」などさまざまな感情が入り乱れ、不安という言葉では表せないほどの衝撃が走りました。そのときは「自分が責められてしまう」、「どうすれば逃げられるか」などと考えてしまい、子どものことを考える余裕すらなくらい混乱されたそうです。

それでも山下さんは意を決し、すぐに医師に勧められた市内の療育施設へ通うことにします。週に数回、一人ひとりに合わせた遊びや生活に関する発達支援を受けることができるところです。しかし、なかなか思うようにいかないもどかしさから、施設へ足を運ぶことに抵抗を感じるようになってしまいました。

そんな状況の中、周りにいたお母さんが、声をかけてくれるようになりました。「自分の親にすら話せない内容も、同じ悩みを抱えている人には話せた」と山下さんは語ります。先輩であるお母さんのアドバイスで、お子さんも少しずつですが成長することができ、達成することの喜びから、子育てに前向きになれたそうです。

発達障がいの診断を受けて

現在、お子さんは18歳。成長の過程でたくさんのお悩みや困難にぶつかってきましたが、「今までやってこられたのは、出会ったお母さんたちや支援をしてくれる先生が一緒になっ

て思いを共有してくれたから。そのときは必死だったけど、おかげで今なら笑って話せるようになった」と話していました。

発達障がいって何？

発達障がいは、言葉、コミュニケーション、社会性などの発達に特性^{*}があることで、日常生活や社会生活が難しくなる脳機能の障がいです。その行動や態度が「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。

発達障がいは、代表的なものとして「ASD」「ADHD」「LD」などのタイプがあり、生まれつき脳の一部の機能に障がいがあるという点が共通しています。同じ人に、いくつものタイプの発達障がいがあることも珍しくなく、同じ障がいがある人同士でもまったく似ていないように見えることがあります。

また、発達障がいはずっと発達しないのではなく、生まれつき発達したかに凹凸がある障がいと言われることがあります。発達しにくい弱い特性がある一方で、強みである特性を生かした仕事に就き、社会で活躍されている人たちがたくさんいます。

持っている特性を本人や家族・周囲の人がよく理解し、その人にあつたやり方で日常的な暮らし、学校や職場での過ごし方を工夫することで、本来の力がしっかりと生かされるようになります。

※特性…知覚、認知、運動、言葉などの発達面の強み・弱み

発達障がいの気づきのポイント

人との関わり方

- ・ひとり遊びが多い
- ・おとなしすぎる、常に受動的

コミュニケーション

- ・話を聞かなければならない場面でじっとしなかったり、聞いていないことがある

イマジネーション・想像性

- ・相手にとって失礼なことや相手が傷つくことをいってしまふ
- ・集団で何かしている時にボーッとしたり、ふらふらと歩いたりする

注意・集中

- ・ひとつのことに没頭すると話しかけても聞いていない
- ・落ち着きがない、集中力がない、いつもぼんやりとしている

感覚

- ・ざわざわした音に敏感で耳をふさぐ、雷や大きな音が苦手(聴覚)
- ・靴下をいつも脱いでしまふ、同じ洋服でないとダメ、手をつなぎたがらない(触覚)
- ・極端な偏食(味覚・嗅覚など)

運動

- ・身体がクニャクニャとしていることが多い、床に寝転がることが多い
- ・極端に不器用、食べこぼしが多い

学習

- ・話が流暢で頭の回転が速いことに比べて、作業が極端に遅い
- ・難しい漢字を読むことができる一方で、簡単なひらがなが書けない

情緒・感情

- ・極端な怖がり
- ・ささいなことでも注意されるとかっとなりやすい、思い通りにならないとパニックになる
- ・一度感情が高まるとなかなか興奮がおさまらない

※発達障害情報・支援センター 国立障害者リハビリテーションセンターのウェブサイトから一部を抜粋しています

発達障がいは、成長によって特性が、徐々にあらわれてきます。早いお子さんで乳幼児期に気づきが見られることがあります。発達障がいの

早めに気づくことが重要

周囲から見て理解されにくい障がいですが、発達障がいの人たちが社会の中で自立していくためには、子どものうちからの気づきと適切なサポートが必要です。

国が平成24年度に、全国公立小中学校の児童生徒約5万人を対象にした調査で、発達障がいの可能性があるとされた割合が6.5%という結果が出ました。実に一クラスに二人程度は発達障がいの傾向があるということです。

周りから理解されにくい

ある子どもが、社会に適應する力に身につけながら、自分らしく成長できるようにするために、発達障がいに関する適切な療育につなげることが重要であると最近の研究でわかってきました。

相談してください

市では、乳児期、1歳6カ月、3歳の各段階でお子さんの健康診査を行っています。また、就学を一年後に控えた時期に発達に関して、小児科医などの専門家が相談に応じる5歳児発達相談会を行っています。

身近な相談支援機関

発育や発達に関する相談

○保健センター(糸米二丁目6-6)

☎ 083-921-2666

※各保健センター等でも受け付けています

○やまぐち子育て福祉総合センター(旭通り一丁目6-19)

☎ 083-922-0855

就学に関する相談

○学校教育課指導担当(中央五丁目14-22)

☎ 083-934-2863

福祉サービスや支援等に関する相談

○障がい福祉課(亀山町2-1)

☎ 083-934-2794

発達支援全般に関する相談

○子ども発達支援センター愛(富田原町1-50)

☎ 083-933-1070

○山口県発達障害者支援センターまっぷ(仁保中郷50)

☎ 083-929-5012



も発達障がいという事ではありませんが、当てはまる項目が多い場合や気になることがある場合は、身近な相談支援機関に早めに相談してみましょう。

主な発達障がいの種類

LD(学習障がい)

全般的な知的発達には問題がないが、読み、書き、計算など特定の学習能力の習得に時間がかかる。小学2~4年生頃に成績不振などから気づくことが多い。

ADHD(注意欠陥多動性障がい)

「集中できない(不注意)」「じっとしていられない(多動・多弁)」「考えるよりも先に動く(衝動的な行動)」という特性が見られる。不注意の症状は、学校の勉強でのうっかりミスが多い、やるべき事を最後までやりとげない、気が散りやすい。多動や衝動的である症状は、座っていても手足をもしもじする、おとなしく遊べない、じっとしていられずいつも活動する、注意力がないなどがあげられ、いずれも7歳頃までにあらわれる。

ASD(自閉症スペクトラム障がい)

自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障がいが含まれる。共通する典型的な特性としては「社会的な対人関係を築きにくい」「コミュニケーションがとりにくい」「興味や行動のこだわりが強い」という3つがある。保育所や幼稚園に入ると、一人遊びが多く集団行動が苦手など、人との関わり方が独特なことで気づくことがある。

家族への支援

お子さんが発達障がいと診断されると、診断されたことへの葛藤や「児童発達支援事業所へ通わすべし」「通級指導教室へ行くべきなのか」などさまざまな悩みを抱えることになるため、家族への心理的負担は、はかり知れないものがあります。何をどうしたらいいのか。医療機関や行政機関への相談すらもエネルギーを消耗してしまいます。

こうした状況はなかなか人に話せるものではなく、ひとりで抱え込んでしまいがちになります。また、子どもの支援ばかりに目が行きがちになり、結果的に家族に多くの負担を



和やかな雰囲気でお話するお母さんたち
(ママかんフリーカフェの様子)

強いてしまうことが多々あります。このため家族、特にお母さんを中心とした支援についても、活動が行われています。

お母さんが話しやすい環境で

「ママかんフリーカフェ」は、山口県立大学社会福祉学部の藤田久美教授が監修し、発達障がいのお子さんを育てるお母さんたちと、同学部障害児教育研究室に所属するボランティアの学生が運営に関わっている子育てサロンです。

20人くらいの参加者が3テーブルに分かれ、お茶やお菓子を食べながら、発達特性への対応の悩み、利用している幼稚園・学校との関係、家族の関係などの悩みを打ち明けながら、お互いに話をしていました。

各テーブルには、運営に携わる先輩お母さんがつき、自分の体験談を交えながら、参加者の話に耳を傾け、一人ひとりに声をかけていました。

また、大学生のボランティアは、一緒に来たお子さんの面倒を見たり、テーブルについてお母さんたちの話を熱心に聞いたりしていました。

初めて訪れた、小学生のお子さんを育てる市内のお母さんは「小学校では他の人に相談ができず、孤独だった。ここは色々な事を気軽に話せる。人と接する機会が増えて気分がとても楽になった」と話されていました。

ママかんの参加者の声

- 「先輩ママと出会えて力がわいた」
- 「悩んでいるのは自分だけではないということがわかった」
- 「子ども連れで参加しやすかった」
- 「多くの人と交流できるフリーな感じでリラックスできた」
- 「就学で悩んでいることを相談したらアドバイスをもらって参考になった」

ママさんたちを笑顔に

ママかんフリーカフェで、大学生ボランティアとしてお手伝いをしています。とてもあたたかい雰囲気の中、ママさんたちが本音で話しておられるなど感じています。ときどき涙する方もいらっしゃいますが、ここで笑顔になって帰られる方も多いです。ママさんたちが前向きになられるところを見て私たちもうれしくなります。



山口県立大学
社会福祉学部
社会福祉学科4年
中村 華矢子さん

「あたたかいまなざしを注いでください」－発達障がい支援の現場から－

interview



山口県立大学
社会福祉学部教授
障害児教育研究室
藤田 久美先生

「この子をどうやって育てたらいいかわりません」不安に押しつぶされそうな思いを言葉につづってくれるお母さんたち。発達障がいの子どもを育てる家族の声に耳を傾けてきた経験から、家族支援の必要性を感じ、実践や研究に取り組んできました。

ご家族は、親としてできることを一生懸命やっておられます。しかし、発達障がいの子育ては想像以上に大変で家族だけで頑張ることには限界があります。周囲の理解や支えが必要不可欠であり、この環境の有無は家族の生活に大きな影響をもたらします。

同じ境遇の仲間との出会いは勇気や希望を与え、福祉・医療・教育等の支援者との出会いは日々の子育てで発生する悩みや葛藤を乗り越える知恵や力をくれます。また、地域の方々のあたたかいまなざしは、子どもと家族が安心して暮らす生活そのものを支えてくれます。

このような環境で育っていくお子さんたちは目覚ましい成長を見

グループカウンセリングで

仁保にある山口県発達障害者支援センターまっぶは、発達障がいに関する相談・療育・就労支援などを行う包括的な相談機関です。その中で、発達障がいのお子さんを育てる母親を対象に、「ママグループカウンセリング」も開催しています。

参加者5人が、ひとつのテーマに沿って、順番にそれぞれ置かれていく状況を、悩みを交えながら話され、それに専門相談員が相づちを打ちながら、質問やアドバイスを打っていました。

「日頃のお子さんの様子や子育ての悩み、工夫などを語り合う中で、共に学び、共感することを通じて、お



相談員がひとりひとりの話をじっくり聞く
(ママグループカウンセリングの様子)

母さんたちの輪が広がっていくことのお手伝いができればと思っています」と相談員の青木さんは話します。

お母さん同士のつながりで

こうした、発達障がいのお子さんを持つ家族を支援する取り組みに欠かせなくなってきたのが、ペアレントメンターという存在です。

ペアレントメンターは、発達障がいのお子さんの子育て経験がある親で、その経験を生かしながら、診断を受けて間もないお子さんをお持ちの親などに対して相談や助言を行う人たちのことです。

本紙10ページで体験談を語られた山下さんも、ママかんフリーカフェの運営や、ペアレントメンターとして児童発達支援センターのスタッフ、各地域のサークルの集まりに参加するなどして、同じ悩みをもつお母さんたちのお手伝いをしています。

「相談できる場所はたくさんあります。正直、最初は敷居が高いですが、必ず助言がもらえます。そして、早期の療育は、親子にとって何より貴重な時間となり、その経験があることで、入園や入学といった節目に自信をもたせてくれます。一歩を踏み出すことはとても勇気がいることですが、ぜひ行動してください」と山下さんは語られていました。

ママグループカウンセリング

- 日時 ① 1月20日(金)10時～12時
② 2月17日(金)10時～12時
③ 3月3日(金)12時～14時
- 場所 山口県発達障害者支援センターまっぶ(仁保中郷 50)
- 内容 ①②ペアレントメンターによる相談会
③交流会
- 問い合わせ ☎ 083-929-5012

ママかんフリーカフェ

- 日時 4月20日(木) 10時30分～12時30分
年間7回程度開催予定
※ 28年度は終了しました。
- 場所 山口県立大学
地域交流スペースYucca
(宮野下 2689-3)
※場所が変更になることがあります。
- 問い合わせ ☎ 083-934-8011



藤田先生(左端)と研究室の皆さん

せてくれ、なかには思わぬ才能や素晴らしい感性を輝かせてくれるお子さんもいます。

「子育てを通してこのまちで出会った方々のおかげでここまで子どもが成長しました。働く大人になって毎日がんばっているわが子が頼もしくさえ感じ、泣いてばかりいたあの頃が嘘のようです。まだまだ心配なことはあるけれど、周囲の人に支えていただきながらこれからもわが子と共に生きていきます」—成人したお子さんがいるお母さんの声です。

障がいのあるなしにかかわらず、周囲の人々のあたたかいまなざし、子どもと家族に注がれ、すべての子どもたちの健やかな成長発達を社会全体で支えることができるまちになることを心から望んでいます。

市政トピックス

徳地地域に 地域おこし協力隊が着任

11月1日、地域おこし協力隊として、大阪府吹田市出身の飯笹雅博さんが新たに着任し、山口総合支所で委嘱状交付式を行いました。



委嘱状を受け取る飯笹さん（左）

飯笹さんは「移住した地域の人の温かさを感じている。息子が将来、ふるさとを徳地だと胸を張れるよう、力を尽くしたい」と意気込みを語られました。

飯笹さんは今後、徳地で生活しながらそば打ち技術の伝承や地場産品を使った商品開発、販路拡大などに取り組まれます。

問 定任促進課

☎0833・934・2778

山口高等学校管弦楽部が 全国3位に

11月4日、山口高等学校の管弦楽部が第5回日本学校合奏コンクール

全国大会グランドコンテストで3位になったことを受け、伊藤副市長へ報告に來られました。

コンクールは、日本学校合奏コンクールが主催し、10月22日に福島県郡山市で開催されました。山口県代表として出場した山口高等学校は、ハンガリー狂詩曲第2番を部員90人で演奏。出場校20校の中で、表現力や一体感が好評を得て、金賞に輝くとともに、総合第3位に当たる特別賞を受賞しました。

同管弦楽部の磯部灯部長は「受賞を聞いたときは、聞き間違えたのかと思っただ。夢の夢だった特別賞がもらえて放心状態になった」と振り返りました。また、副市長は「日本一を目指して伝統を後輩に引き継いで欲しい」と同部の快挙をたたえました。



トロフィーと賞状を手にする部員ら

問 文化交流課

☎0833・934・2717

やまぐち元気いきいき 大賞の表彰式を開催

11月16日、市民会館小ホールで開催された「健康づくり・介護予防フォーラム」において、平成28年度「やまぐち元気いきいき大賞」の表彰式を行いました。

この賞は、優れた健康づくり活動を行っている地域団体や事業所、健康長寿の人を表彰し、その取り組みを紹介することにより、健康づくりの輪が広がることを目的としており、本年度は3団体、1事業所、9人を表彰しました。

なお、表彰者の紹介はウェブサイトにてご覧いただけます。

問 健康増進課

☎0833・921・2666



表彰式の様子

サンタクロースが 子どもたちと交流

12月中、クリスマス市になった本市では、クリスマスに関連するさまざまな行事が各地で催されました。

なかでも、11月に観光交流パートナーシップ協定を結んだフィンランド共和国ロヴァニエミ市のサンタクロース村からやってきたサンタさんが、湯田温泉や阿東地福、中心商店街など市内各地を回りました。

12月3日に湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」で行われた展示会「サンタクロースのふるさとからのストーリー」のオープニングセレモニーを皮切りに、同日の「クリスマス市イルミネーション点灯式」、4日の「サンタがあとにやってくる」へ参加。10日、11日の「クリスマスマーケット」には、記念撮影会を行うなど、子どもたちを喜ばせていました。

問 観光交流課

☎0833・934・2810



子どもたちと記念撮影するサンタさん



SURVIVAL FAMILY

サバイバルファミリー

©2017 フジテレビジョン 東宝 電通 アルタミラビクチャーズ

①山口宇部道路を封鎖して撮影された。4人の家族を中心に描かれる。左から葵わかなさん、深津絵里さん、小日向文世さん、泉澤祐希さん。②阿東地域でのワンシーン。大がかりな撮影も行われた。③本市以外でも、県内各地で撮影が行われた。藤原紀香さんなど豪華俳優が出演している。④矢口史靖監督。



あの「ウォーターボーイズ」の矢口監督が 山口を中心に撮影した映画が公開されます

一昨年秋、本市を中心に撮影された映画「サバイバルファミリー」が2月11日から上映されます。監督は、「ウォーターボーイズ」や「スウィングガールズ」などでおなじみの

矢口史靖監督。矢口監督は、「ウォーターボーイズ」の大ヒットに始まり数々の映画をヒットさせ、日本の娯楽映画で確固たる地位を築いた監督で、ユーモアと感動に溢れる映画作

りに定評があります。「サバイバルファミリー」は、電気が消えた東京に住む家族が東京を脱出しサバイバルをしながら必死に生きていく姿が描かれています。主な出演者は、小日向文世さん、深津絵里さん、泉澤祐希さん、葵わかなさんで、

本を書く前に何度も山口県に通いました。S L『やまぐち』号に乗れば乗るほど気持ちは高まるばかり。気付くと、物語のクライマックスで最も重要な役になっていました。そして山口宇部道路、角島…。山口県の協力なくしてはこの映画は完成しなかつたと思います。ありがとうございました。ごさい。

この映画は、2月11日から、県内の映画館で放映されます。ぜひご家族揃って大スクリーンでお楽しみください。

問 観光交流課

☎ 083-934-2810

山口市での撮影にあたって

古屋剛さん

(山口市フィルムコミッション)

山口市のロケ資源と矢口監督のイメージがぴったりと合い、ロケ地誘致につながりました。延べ600人を超えるエキストラ出演や、山口宇部道路の封鎖など大がかりな撮影ばかりでしたが、地域の皆様のご協力のおかげで無事撮影を終了しました。見慣れた景色も、矢口監督のカメラを通して見ると全く違う景色に見えるので、改めて山口の魅力を感じてください。

第16回防府音楽祭 ほうふニューイヤーコンサート 2017

アーティスト達が防府の街のあちこちで奏でます。

【オープニング街角コンサート (入場無料)】

■日時 1月6日(金) 10時から

■場所 防府まちの駅 うめてらす(防府市松崎町1-20)、
防府市役所議会棟議場、その他防府市内各所

アスピラート(防府市地域交流センター)にて、3日連続でコンサートを行います。出演者、チケット等の詳細はお問い合わせください。

①プロムナードコンサート (入場無料)

■日時 1月7日(土) 11時から

②わくわく夢の響演コンサート

■期日 1月8日(日)

③ファイナルコンサート

■期日 1月9日(月・祝)

問 9時~17時に、アスピラート

☎ 0835-26-5151 (火曜休館)



ハローキティ&シュガーバニーズの きょうまくいくよ

ハローキティを中心に、会場全体で歌やダンス、ゲームで遊ぶ参加型バラエティショーと、マイメロディとシュガーバニーズのミュージカル。親子3世代で楽しめます。

■日時 1月29日(日)

午前の部 11時から、午後の部 14時から

■場所 宇部市渡辺翁記念会館(宇部市朝日町8-1)

■入場料 全席指定 2,000円

※2歳以下の膝上鑑賞は無料

■チケット販売 宇部市文化会館、宇部井筒屋、フジグラン宇部、おのだサンパーク、山口情報芸術センター[YCAM]、山口市民会館、サンパークあじす、ローソン(Lコード:62430)、セブンイレブン、ファミリーマート、宇部市文化創造財団ウェブサイト

問 宇部市文化創造財団 ☎ 0836-35-3355

一の坂に「おいでマルシェ」

オープン1周年を迎えた「おいでマルシェ 一の坂」。山口の豊かな自然の中で、愛情を込めて育てた鮮度抜群な有機野菜をはじめ、通常のマーケットではなかなか出会えない新鮮食材や商品が並びます。ランチやお散歩を兼ねて、「おいでマルシェ」にぜひおいでませ!



■日時 1月8日(日) 9時~15時

※毎月第1日曜に開催しています。

1月のみ第2日曜に開催。

■場所 一の坂川交通交流広場
(中河原町12-1)

■内容 青果品のほか、季節の花や美味しい加工食品、地ビールなどたくさんの商品を販売。山口の食材を使った釜焼きピザやスイーツもその場でお楽しみいただけます。

問 農林政策課 ☎ 083-934-2891



彩り豊かな
新鮮野菜が並びます

新鮮野菜の証!
葉付きにんじんも販売



わがまちも、となりまちも、ぐるっと再発見!



問 広報広聴課
☎ 083-934-2753

表紙の写真は、阿東地域にお住まいの賀屋良季さんの畑での「コマ」。賀屋さんは、家の周りにある畑やハウスで、家族と共にトマトやパプリカなど、たくさんの野菜を育てています。

賀屋さんは大学卒業後、後輩だった直美さんと結婚。10年前に妻の実家の阿東地域に移住してきました。子どもの頃から農業に憧れていたものの、縁のない家庭に育ちました。しかし夢が諦めきれず、新規就農と定住に力を入れていた山口市に魅力を感じ、定住を決めました。今は3人の子宝に恵まれ、妻の両親、そして温かい地域の人たちと里山の豊かな自然に囲まれた中で、暮らしています。「将来子ども達が自分の進路を決めるとき、『農業っていいな、田舎っていいな』と、選択肢の一つになればうれしい。」と賀屋さん。

今日もどこかの食卓で、賀屋さんが育てた野菜が、家族団らんに彩りを添えています。

表紙の写真から
日常に彩りを添える

1月 2月

イベントカレンダー

1/1 (日・祝)

新春体力づくり鴻の峰登山 [白石] スポーツ交流課 ☎ 083-934-2874

元旦登山・雨乞山 [小郡] 小郡地域交流センター ☎ 083-973-0638

初日にちかう会・文殊岳 [徳地] ゆたかな串を育てる会 ☎ 0835-54-0776

1/4 (水) ~ 3/5 (日)

れきみんモノがたり「つどうまつり つなぐまつり」 [大殿] 歴史民俗資料館 ☎ 083-924-7001

1/8 (日)

成人式 [白石] 社会教育課 ☎ 083-934-2865

※式典は市民会館で 14 時から

消防出初式 [名田島] 消防本部 警防課 ☎ 083-932-2202



1/14 (土)

ニューイヤーバンドフェスティバル 2017 [白石] 市民会館 ☎ 083-923-1000

1/15 (日)

市駅伝競走大会 [阿知須] スポーツ交流課 ☎ 083-934-2912

日暮ヶ岳健康登山 [徳地] 森の案内人の会事務局 ☎ 0835-52-1122

1/21 (土)

南部地区人権学習推進大会 [名田島] 南部地区人権学習推進合同会議 ☎ 083-973-0139

1/28 (土) ~ 2/5 (日)

やまぐち新進アーティスト大賞ノミネート作品展 [大殿] 文化交流課 ☎ 083-934-2717

1/29 (日)

文楽講座～文楽への扉 in 山口 [白石] 市民会館 ☎ 083-923-1000

2/11 (土・祝)

市民ロードレース大会 [秋穂二島] スポーツ交流課 ☎ 083-934-2912

開催中のイベント

4/16 (日) まで

企画展Ⅱ「中也、この一篇『サーカス』」 [湯田] 中原中也記念館 ☎ 083-932-6430

おとうさん、おかあさんといっしょ

あと雪まつり 十種ヶ峰スキー場 【阿東嘉年下】

雪上ゲーム大会、雪像づくりコンテスト、スキー講習会など、小さなお子さんから大人まで、雪と存分にたわむれることのできる、さまざまなプログラムが満載です！ただし、雪が積もっていない場合は残念ながら中止となります…ご了承ください。

【日時】 1月29日(日) 9時～15時
※スキー講習会の申し込み方法など詳細についてはお問い合わせください。

☎ 阿東地域交流センター ☎ 083-956-0116

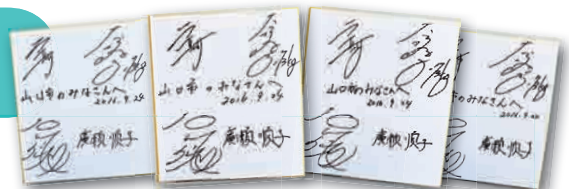


お年玉プレゼント

メダリスト4人のサイン入り色紙を4名様へ

昨年はリオ五輪・パラリンピックが開催され、本市ゆかりの選手が6人も出場し、4人もメダリストが生まれました。一つのまちからこれだけ多くのメダリストが出て来るのは大変珍しいことです。この歴史的な快挙を記念して、本市のためだけに特別に書いて頂いた4人のサイン入り色紙を4名様に(一人1枚)プレゼントします。希望される方はハガキで、①〒住所、②氏名、③年齢、④市報やまぐちの感想を記入の上「メダリストサイン希望」と書き添えて、1月27日(金・消印有効)までにご応募ください。抽選で4名様にサイン入り色紙をプレゼントします。なお、当選は発送をもってかえさせていただきます。(当選者には2月上旬発送予定)

応募先 〒753-8650 山口市亀山町2-1 広報広聴課宛て



「狐の足あと」にて

